



KAGOSHIMA Y'S MEN'S CLUB

2024. **11** 月号

鹿児島ワイズメンズクラブ No. 407

国際会長：A. Shanvaskhan [インド] より良い世界のために、共に
Together for a Better World

アジア太平洋地域会長：Joan Wong [香港] 大きなインパクトを起こそう
Make a Great Impact

西日本区理事：鵜丹谷 剛 [神戸クラブ] つなげよう地域と世界 YMCAとともに
Connect Local and World with YMCA

九州部部长：大崎 隆 義 [熊本むさしクラブ] 始めからもう一度



みつかる、つながる、よくなっていく

鹿児島クラブ会長 新内 博之

10月例会報告

鹿児島クラブ 中堀 清哲

10月例会は卓話者に『NoahCoffee』を霧島市日当山で経営されておられる山下さつき女史をお迎えし、「珈琲館かみむら」にて22日(火)に開催されました。山下さんの卓話は二回目です。自家焙煎の珈琲豆販売店&カフェを霧島市と沖永良部島で経営されつつ、2008年沖永良部島に国産コーヒーの農園を開園し、前回はその奮闘ぶりを卓話していただきました。が、「やはり実際に飲んでみたい」という皆さんの要望が強く、今回は卓話と実際に沖永良部島珈琲を飲んでみる例会にしたいとお願いしましたら、山下さんが快く引き受けてくださいました。更に、神村ワイズのご厚意で素敵な空間を提供していただきました。国産コーヒーと沖永良部島コーヒーの現状などの興味深いお話の後に、実際に皆さんでコーヒーを飲んでみました。輸入豆にも引けを取らない、いや、それ以上の飲みやすいコーヒーでしたね。混沌とした世界情勢や気候変動のせいで輸入コーヒー豆は高騰し、国産コーヒーは今、注目をあびています。鹿児島県の立派な農産品に成長・発展していただけますことを願いながら、じっくり珈琲を味わいました。



TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT



今年で15回目を迎える鹿児島YMCAインターナショナル・チャリティーラン2024がまもなく開催されます(12月7日)。第1回目からこの大会を作り上げてきたメンバーのひとりとして、途中コロナの時期もありながら15年も継続して障がい児支援活動に取り組むことができていることを思うと、人と人との「つながり」の大切さを痛感します。

15年前の当時、鹿児島YMCAはまだ産声をあげたばかりでしたが、初めての大きなボランティア企画としてチャリティーランをやってみようという機運が高まっていました。初めてのチャリティーランは10月24日に開催予定で、手探りの中開催の努力をしていましたが、残念ながらその日は鹿児島YMCA存続を話し合う重要な会合が開かれた日となり、やむなく12月に延期をしたということがありました。存亡の危機の中、それでもYMCAの灯を消してはならないという思いと共に、第1回のチャリティーランは大成功のついに実施することが出来ました。このような状況にあっても、法人賛助会の南国殖産や日本ガス、洵上印刷といった企業の方々が中心となってこのチャリティーラン開催を支えてくださいました。この「つながり」は15年たった今も続き、15年続けて実行委員としてチャリティーラン開催に尽力くださっています。

この素晴らしい「つながり」をもった実行委員会は、いつしか参加する企業も増え、実行委員それぞれにチャリティーランを支える意義が「みつかっている」と感じます。久しぶりに顔を合わせるたびに、またこの季節がやってきましたね、今年はいつから実行委員会ははじめますか？といった実行委員会に前向きなコミュニケーションがあります。この気持ちの根源はどこにあるのだろうと色々話を聞いてみると、会社の枠や肩書を超えてボランティアを通じてうまれる心地よい関係性、つまり実行委員会が心地よい居場所になっているということを聞いたことがあります。そしてチャリティーランを通して、障害ということについて考え、触れることで社会がよくなっていくための活動になっているという実感があるということでした。

崖っぷちのYMCAから始まったチャリティーランは、15年目を迎えた今も多くの方々に「つなげ」、ボランティアの意義を「みつけ」、それぞれの社会生活、人生観がよくなっている企画になりました。15回という積み重ねは、チャリティーランに関わってきた全ての方々の思いと努力によって成り立っています。そして鹿児島ワイズメンズクラブもまたその積み重ねの中にある重要な存在です。いよいよ15回目を迎えるチャリティーランをみんなで祝福しましょう。



厳しい残暑も和らぎ、ようやく秋の気配が出てまいりましたが、皆様如何お過ごしでしょうか？季節の変わり目は体調管理にもお気をつけください。今月も各部部会シーズンが続いており、先月に引き続き私自身も大いに楽しんでいます。

9月30日開催の中部部会では、名古屋だけに？和やかでアットホームな雰囲気にも包まれた部会でした。ユースリーダーも多く参加され、懇親会で共に楽しみ交流が出来たことは本当に良かったです。アトラクションのマジックショーは、目の前で凝視しても全く仕掛けが判らず・・・少し位判りそうなものですが、本当に摩訶不思議・・・。

翌週、熊本で開催の九州部部会は、明るく、陽気で楽しい部会で、九州人の気質を感じます。オープニングの清吟流田尻晃聖さんの詩吟は、さすが全国詩吟コンクール青年の部優勝の実力派で素晴ら

しい節回しでした。続いての中高生チームの大津太鼓は、本当に力強く、ユースの真剣な眼差しと気迫あふれる圧巻のパフォーマンスで大感激でした。

また、12日には唯一東日本区への富士山部部大会に参加が出来、相磯部長所属の沼津クラブとDBC 先の京都トップスクラブからも多くのメンバーが駆けつけました。西日本区とは雰囲気が異なり新鮮な感覚でした。

YMCA 同盟有田主事の講演では、奥能登豪雨被害支援の報告をいただき、既に各 YMCA からの人的派遣支援も始まり、11月末までは少なくとも継続される予定です。

部会の他、14日にはびわこ部高島クラブ5周年記念としてマキノ高原でのBBQ 例会があり、びわこ部皆さんが中心の会でしたが、理事キャビネット、主任メンバーも参加をし、高島クラブのこれまでの歴史に思いを馳せながら、メンバー他、ゲストの方々も交えた交流など秋の祝日の楽しいひと時を過ごしました。

今期様々な会への参加を目標とし、東奔西走の忙しさもありますが、伺えば今後の方針等への参考になるお話も多くお聞かせいただき、貴重な時間となっています。やはり現場へ赴き参加すること、部から外へ出る事の大切さ、素晴らしさをひしひしとを感じる次第です。

さて、11月5日からドバイで開催の IYC (インターナショナルユースコンボケーション) に西日本区から4名のユースが参加となりました。世界のユースが寝食を共にし、様々なプログラムや交流を行う IYC や AYC は、ユースにとって一生の財産に繋がる貴重な経験となり得ます。2名のユースは阪和・中西部合同 EMC シンポジウムへの参加から登録へと至り、ワイズ行事から国際プログラムの参加に繋がる事に大きな意義を感じます。

今後このような機運が益々高まっていく事を期待しています。

10月19日には第2回役員会が開催されました。今回は単日開催へと踏み切り、多くの議案・協議案がある中でしたが、時間通り終了できました。区財政の改善に向けた協議などしながら、西日本区として未来を創造するユースへの更なる支援強化に向けた協議なども進めています。これらのことが将来ワイズダム発展と、より良い世界への実現へ繋がる事を切に期待しています。

10 October 10月例会報告

日 時：令和6年10月22日(火) 19:00～21:00

場 所：珈琲館かみむら

出席者：14名

司会者：徳田ワイズ

10月例会の記録

クラブ在籍者	9名
出席者	9名
メネット	1名
コメット	1名
ゲスト	3名
ビジター	0名
メイクアップ	0名
10月出席率	156%

今月の樹 バショウ



バショウ科の木本状多年草。原産地は中国南部とされるが、詳細は不明。中国名は芭蕉。英名は Japanese banana (ジャパニーズ・バナナ) である。英名は、シーボルトが日本でバショウを発見して、ヨーロッパに伝えたことに由来する。バナナの仲間であるが、耐寒性があり、日本でも関東地方以西の屋外で越冬できる。
(ウイキペディア参照)



今月の聖句

この民は、口でわたしに近づき、唇でわたしを敬うが、心はわたしから遠く離れている。



鹿児島ワイズメンズクラブ
WEB サイトはこちら▶



世界食料デー 鹿児島大会街頭募金

世界食料デー鹿児島大会主催の概要募金に、鹿児島ワイズメンズクラブと YMCA チアダンススクールメンバーと一緒に参加しました。過去最高の 7 万円を超える募金が集まりました。食料デーを通して、世界の飢餓対策、食料事情に触れることで、多くの学びとたくさんの善意を知ることが出来ました。



おはら祭

11 月 3 日（日）毎年恒例となりましたおはら祭に、200 名を超えるスクール生が出演しました。秋晴れの下、心地よい空気を感じながら、天文館の沿道で踊る特別な体験が出来ました。



カーボンニュートラルフェア in きりしま

11 月 16 日（土）鹿児島県主催のカーボンニュートラルフェア in きりしまに呼んでいただき、霧島校のメンバーを中心に出演してきました。ステージではサイエンスショーや電気自動車の展示などもあり、子どもたちは脱炭素社会について学んでいました。



タックスフェスタ

11 月 17 日（日）鹿児島法人会青年部主催のタックスフェスタ。税がどのように社会で役立てられているか、税のことについて考えるイベントに、これまで 3 年続けて呼んでもらっています。鹿児島市内の子どもたちを中心に、このイベントに出演してきました。子どもたちは税金が自分たちの学校生活に役立てられていることを改めて学ぶ機会でした。



Jamfest in YOKOHAMA

11 月 17 日（日）チアダンスの大会、Jamfest に中高生チームの CAST Magic Faith が出場し、全国規模の大会で 2 位という好成績を収めることができました。会場は横浜スタジアム近くの横浜 BUNTAI という施設。なんと横浜 YMCA から徒歩 5 分という立地で、鹿児島から移動後は横浜 YMCA が練習場所を提供してくださいました。YMCA のつながりを感じながら、たくさんの経験が出来た大会となりました。



鹿児島YMCA 新内 博之